Ⅰ　貯蓄の状況

１　概要

（１）二人以上の世帯の貯蓄現在高は1722万円

平成18年平均の二人以上の世帯の１世帯当たり貯蓄現在高は1722万円で，前年に比べ0.3%の減少となった。貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は，年間収入が645万円で前年と同額であったことから，前年に比べ0.9ポイント低下し267.0%となった。

このうち勤労者世帯についてみると，１世帯当たり貯蓄現在高は1264万円で，前年に比べ2.2%の減少となった。また，年間収入が713万円で前年に比べ0.8%減少し，貯蓄年収比は，前年に比べ2.4ポイント低下し177.3%となった（表１）。

表１　貯蓄現在高の推移

年次	貯蓄現在高	年間収入	対前年増減率		貯蓄年収比
			貯蓄現在高	年間収入	
	（万円）	（万円）	（%）	（%）	（%）
二人以上の世帯					
平成14年	1688	683	-	-	247.1
15	1690	660	0.1	-3.4	256.1
16	1692	650	0.1	-1.5	260.3
17	1728	645	2.1	-0.8	267.9
18	1722	645	-0.3	0.0	267.0
うち勤労者世帯					
平成14年	1280	748	-	-	171.1
15	1292	721	0.9	-3.6	179.2
16	1273	730	-1.5	1.2	174.4
17	1292	719	1.5	-1.5	179.7
18	1264	713	-2.2	-0.8	177.3

（２）約３分の２の世帯が平均貯蓄現在高を下回る

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると，平均値（1722万円）を下回る世帯が67.9%（前年67.3%）と約３分の２を占め，世帯分布は貯蓄現在高の低い方に偏ったものとなっている。なお，最も世帯数の多い階級は200万円未満の階級で，二人以上の世帯に占める割合は15.8%となっており，前年（14.1%）に比べ1.7ポイント拡大した。

また，世帯全体を二分する中位数は1008万円（前年1052万円）となった。

このうち勤労者世帯についてみると，平均値（1264万円）を下回る世帯が66.9%（前年66.6%）を占め，世帯分布は貯蓄現在高の低い方に偏ったものとなっている。なお，最も世帯数の多い200万円未満の階級の勤労者世帯に占める割合は19.1%で，前年（16.5%）に比べ2.6ポイント拡大した（図１）。
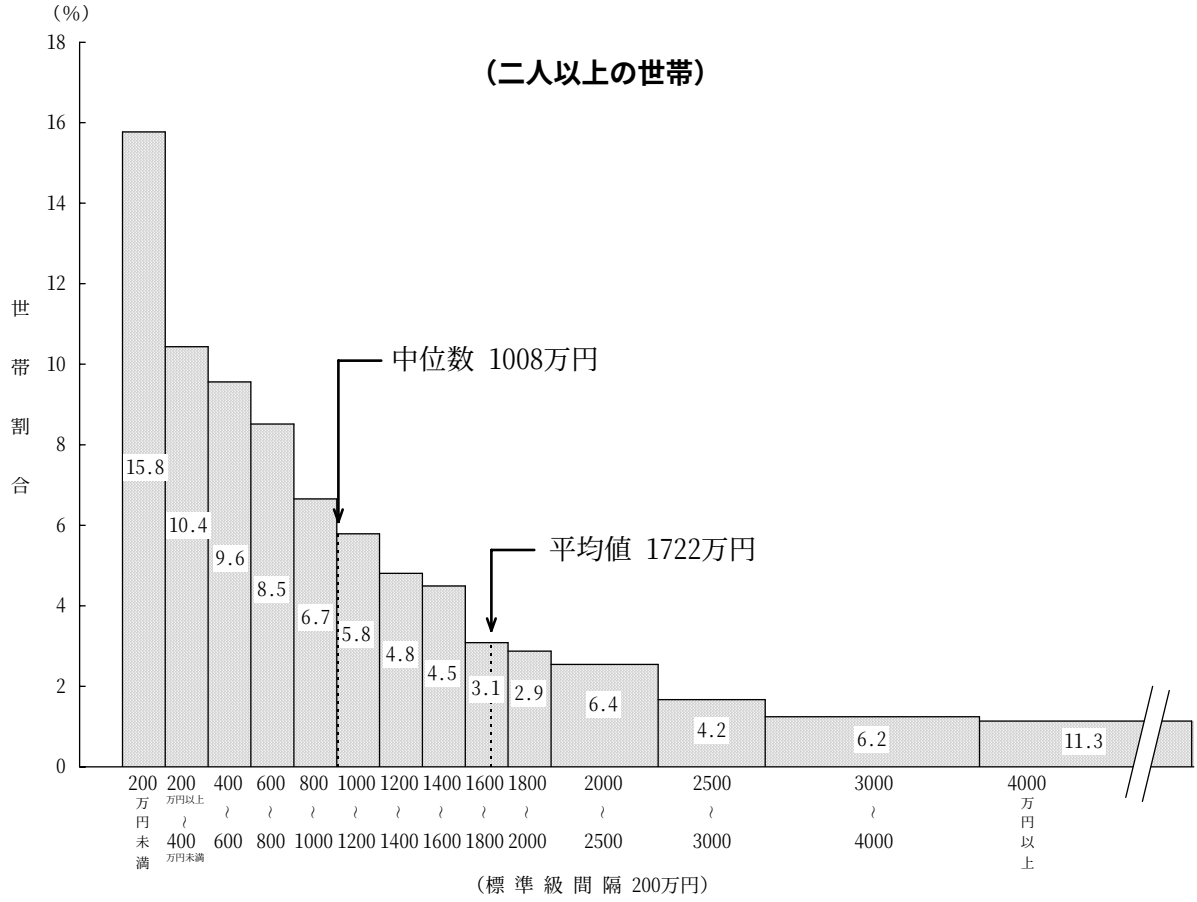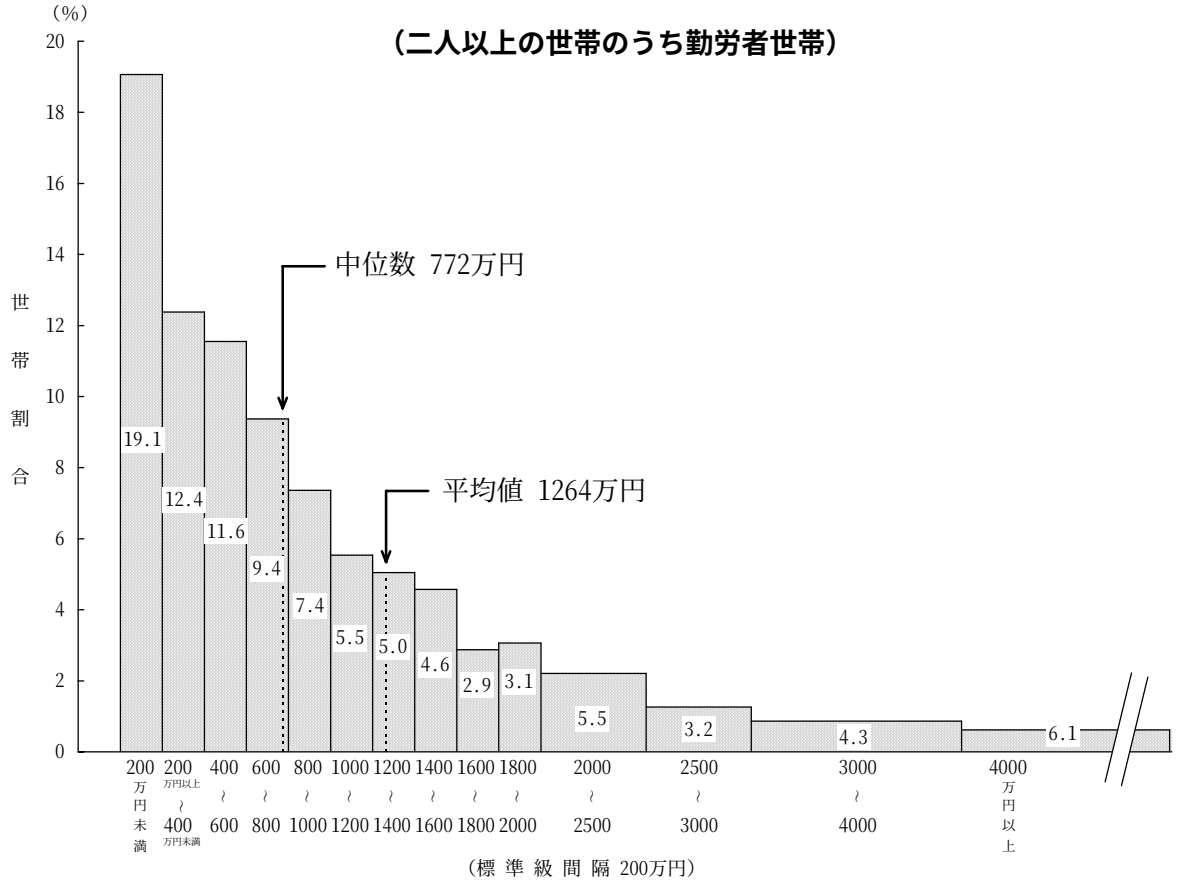
図１　貯蓄現在高階級別世帯分布 －平成18年－